



山陰教区寺族婦人会連盟50周年記念大会

2019(令和元)年10月10日(木)、ビッグハート出雲にて開催(記事は2・3ページ)



第 22 号

山陰教区
寺族婦人会連盟

題字：鷺谷良子



寺族婦人会連盟

五十周年を迎えられて

山陰教区教務所長 佐々木 了 慎

令和元年十月十日、山陰教区寺族婦人会連盟五十周年の記念大会を、多数のご来賓並びに会員の皆様ご参集のもと、ビッグハート出雲にて開催いたしました。

歴代の役員並びに会員の皆様の長年に亘るご尽力のおかげをもちまして、五十周年という節目を迎えられましたこと、また、新たな始まりとなる記念すべき大会を賑々しく開催できましたこと、衷心よりお慶び申し上げますとともに、感謝申し上げます。

さて、寺族婦人の皆様は、寺院活動の現場において、篤いご法義のもと門信徒の方々の期待に応え、悩みや苦しみに寄り添うべく、努力を重ねておられることと存じます。

その証左の一端と存じますが、令和元年八月、『山陰中央新報』に「山陰は、『寺』と『人』との結びつきが全国トップ」との記事が掲載されました。一般社団法人お寺の未来(東京都)の調査によると、特定の寺院の門徒や檀家であるとの意識や、仏事を依頼する特定の寺院がある割合

が、全国で最も高いとのことであります。その傾向について、「山陰は日常に寺の存在感があり、僧侶の顔が浮かぶ人間関係があると推察される。寺への意識は篤い。」との分析結果が掲載されておりました。

また、宗門における活動でも、本山への念仏奉仕団の参加者数が、二〇一八年度、山陰教区が全教区中で最も多く、二〇一九年度も現在のところ山陰教区が最も多いとのことでもあります。

これらのことは、ご住職・坊守様をはじめ寺族婦人の皆様のご尽力があつてこそと、有り難く受け止めさせていただきますとともに、愛山護法の思いで宗門・本山の活動をお支えいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

引き続き益々、寺族婦人会はもとより教区、並びに宗門・本山の将来を見据え、次の世代にお念仏のみ教えを弘め伝えるべく、積極的な伝道教化活動にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

婦人会連盟50周年記念大会



開会にあたり、佐々木了慎教務所長よりご挨拶



午前10時30分、開会式。竹下三郎宗会議員、高野顯信教区会議長、藤谷崇文組長会長、大迫五十鈴教区仏教婦人会連盟委員長に、ご来賓としてご出席いただきました。「らいはいのうた」のお勤めの後、「私たちのちかい」を唱和しました。



続いて、福井春美委員長よりご挨拶



今までご尽力をいただいた皆様に、感謝の意を表しました。



過去10年間で委員長をお務めいただいたお三方からご挨拶をいただきました。
1. 第10代委員長 服部やよ生 様 2. 第11代委員長 吉田真子 様 3. 第12代委員長 毛利壽恵子 様

寺族婦人会連盟50周年記念大会開催にあたって

大田東組 正願寺 黒河ひろ子

寺族婦人会連盟五十周年の記念大会を開催する節目に当たり、実行委員としてかわり貴重な体験をさせていただきました。昨年度より三回の実行委員会、資料の作成等、事務局と細かい連絡を取りながら、大会当日を迎えました。参会者の皆様には何か心に残る大会になればとの思いで準備を進めて参りましたが、大会終了後参会者のお一人から「とても印象に残る良い大会でしたよ。」と実行委員長にお声かけいただいたと聞き、私たち実行委員として、その一言でほっと安堵した思いがしました。講話をいただいた水之江陽子先生は穏やかな語り口で、時には力強く語りかけられ、誰にもわかる易しい言葉でお話しくださいました。大分県日田市での豪雨災害で仏教会長のお孫さんが消防士として活動中に山崩れで亡くなられたお話や、先生ご自身ががん宣告され闘病されたお話等々、身近で起きた実話からのご話でした。

形あるものは必ず壊れる(諸行無常)、私の中に確かなものは何もない。人生は思いどおりにはならない(諸法無我)、すべて

山陰教区寺族



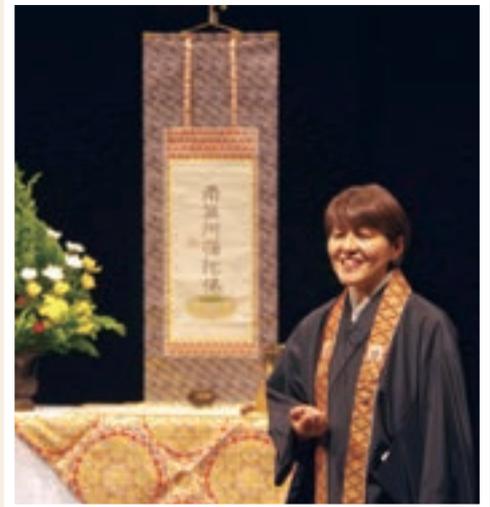
記念大会の会場となったビッグハート出雲「白のホール」の参加者席。160名のご参加がありました。



閉会式で、河野宜子副委員長よりご挨拶



お昼ごはんの後、健康運動指導士の宇山民代先生のレクチャーで体をほぐしました。



布教使の水之江陽子師(大分教区日田組法林寺)から講話をいただきました。ご自身やご家族のご病気のこと、地元の災害のことなど、体験談をもとに優しくお話しくださいました。



会場の入口で、スタッフ一同の記念撮影



50周年を迎えるにあたり、歴代委員長を代表して、第8代委員長 岡本茂子様へ、福井委員長より感謝状を伝達しました。

は苦しみの中にある(一切皆苦)、
 仏様が私のために働いてくださっ
 ている(涅槃寂靜)、の四法印を
 ありがたく説示くださいました。
 午後の席ではお父様が肝臓が
 んで十年間闘病されたお話、ご
 自身が現在、市の福祉相談員と
 して人の苦しみ、悲しみに寄り
 添うお仕事にかかわっておられ
 るお話を聞かせていただきました。
 「人は迷惑をかけないと生き
 られない。お世話になつて生き
 らばいいのだ。自分の欲やグチ
 ばかりがそのままに、すでに南
 無阿弥陀仏の願いの中に包まれ
 ているのです。」と結ばれました。
 質問コーナーでは会場からの
 質問、感想はありませんでした
 が、福井委員長からの感想とし
 て、昨近はお寺を取りまく事情
 が変わり寺参りが少なくなった
 とか、お念仏が伝わりにくくなっ
 たという話を耳にするけれども、
 どうしたら伝わるかではなく、自
 分自身が坊守として努力を重ね
 門信徒一人ひとりへの声かけが大
 切であると感じたというお話で
 最後にまとめていただきました。
 秋晴れのもと、皆様のお力を
 いただき、無事五十周年記念
 大会を終えることができ感謝申
 しあげます。資料の活動事例集
 はお手もとにおいていただき、
 寺院活動の参考やヒントにして
 いただければ幸いです。 合掌

寺族婦人研修会を終えて

大田西組 福正寺 三上 正子

平成三十年七月十一日に予定されていた寺族婦人研修会が、豪雨災害にて中止となりました。島根県でも江の川を中心に被害にあわれた方々が、たくさんいらつしやつたことでしょう。お見舞い申しあげます。

さて、平成三十一年三月五日、あらためて本願寺山陰教堂で、講師に浄土真宗本願寺派総合研究所研究員の菊川一導師においでいただき開催されました。

宗門重点プロジェクトの実践目標「貧困の克服に向けて」を取り組むにあたって学ぶ研修でした。最初にご門主さまの『念仏者の生き方』より「仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど…。」私ほどのように生きていくのかの覚悟を問われました。

講義の中で、「絶対的貧困」、「相対的貧困」の違いを知りました。今日、明日食べるものがない、命の危険にさらされているという状態を「絶対的貧困」といいます。

ところが、現在の貧困は、どこでも見かける若者の中に見えかくれしています。

「相対的貧困」とは、その国の文化



水準、生活水準と比較して困窮した状態。その国の平均的な水準に比べて所得が著しく低い状態をいいます。これは親の貧困を表わし、日本では所得一世帯当り一二三万円以下です。親の所得によつて生じる、衣、食、住、教育、あそび、体験等できる子、できない子の差。皆との関わりの中で孤立する差。日々の暮らしの中で浮彫りになってきます。

貧困についてお話をいただきましたが、「私には何ができるのか」、これが一番の問題です。さまざまな支援の方法があるでしょうが、「私は」を求めて聴聞させていたたたいたく思いました。

合掌

山陰教区若寺族婦人研修会に参加して

鳥取伯耆組 勝福寺 若原 行子

二〇一九年七月二十五日、山陰教区若寺族婦人研修会が鳥取伯耆組本厳寺様を会所に開催されました。

午前中は、江津組光善寺ご住職、波北頭師をご講師に『お寺はみんなのダイバーシティ』というテーマで講話をいただきました。「ダイバーシティ」とは、性別、人種、年齢、性格、学歴、価値観の多様性や個々人の違いを尊重し受け入れることです。

お話では、多様化する社会の中で生きづらさを抱えている社会的少数者の方にも目を向け、相手の視点に立つて考える必要があるということとやこの世のあらゆるものは繋がりが合つて存在するという縁起の教えは、お互いを尊重し認め合うことにつながるということを学びました。また、いろいろな漫画やアニメを紹介していただき、多くの人が抱えている悩みや生きづらさ、多様性がさまざまな場面で見られることを知りました。

人は繋がりが合つて生きて



いかなければならない社会で、お互いの価値観の差異を認め合い皆が尊び合つて生きていける社会の実現に向けて、仏さまの視点を伝えていくのがお寺の役割だと思えました。

午後からのアトラクションは、「ゲゲの鬼太郎」の作者である水木しげるさんの記念館の見学と水木しげるロードの散策をしました。水木しげる記念館では、水木しげるさんの生い立ちや原画を見たり、たくさんの個性豊かな妖怪達に出会いました。妖怪達の世界に足を踏み入れたような気分になり、童心に帰り、皆でわいわい言いながら見て回りました。お子様と一緒に参加し、親子で楽しんでおられる方もいて、とても嬉しく思いました。

今年度の若寺族婦人研修会は、鳥取伯耆組が担当ということで年度初めに組内の寺婦の皆様と研修内容を考えました。私自身も研修会当日の司会進行の役目があり緊張しましたが、無事に終えることができて安心しました。

大変暑い日でしたが、本厳寺様の本堂は涼しく過ごすことができ、また心のこもったおもてなしをしていただきました。本当にありがとうございました。

2018(平成30)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 一般会計 歳計決算

2019(令和元)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 一般会計 歳計予算

歳入の部

Table with 6 columns: 款項, 費目, 決算額, 予算額, 対比△減, 説明. Rows include 会費, 助成金, 回金, 参加費, 雑収入, 前年度繰越金, and 合計.

歳入の部

Table with 6 columns: 款項, 費目, 2019年度予算, 2018年度予算, 対比△減, 説明. Rows include 会費, 助成金, 回金, 参加費, 雑収入, 前年度繰越金, and 合計.

歳出の部

Table with 6 columns: 款項, 費目, 決算額, 予算額, 対比※超過, 説明. Rows include 研修費, 会議費, 事務通信費, 教化費, 回金, 諸費, 予備費, and 合計.

歳出の部

Table with 6 columns: 款項, 費目, 2019年度予算, 2018年度予算, 対比△減, 説明. Rows include 研修費, 会議費, 事務通信費, 教化費, 回金, 諸費, 予備費, and 合計.

Summary table with 2 columns: 歳入, 歳出, 差引残額. Values: 1,101,493, 896,016, 205,477. Includes note: ※翌年度へ繰越

2018(平成30)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 特別会計 歳計決算

2019(令和元)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 特別会計 歳計予算

歳入の部

Table with 6 columns: 款, 費目, 決算額, 予算額, 対比△減, 説明. Rows include 前年度繰越金, 回金, 雑収入, and 合計.

歳入の部

Table with 6 columns: 款, 費目, 2019年度予算, 2018年度予算, 対比△減, 説明. Rows include 前年度繰越金, 回金, 雑収入, and 合計.

歳出の部

Table with 6 columns: 款, 費目, 決算額, 予算額, 対比※超過, 説明. Rows include 翌年度繰越見込金, 回金, and 合計.

歳出の部

Table with 6 columns: 款, 費目, 2019年度予算, 2018年度予算, 対比△減, 説明. Rows include 翌年度繰越見込金, 回金, and 合計.

※差引残高 552,167 円を繰越金として翌年度へ繰り越しました。

2019 (令和元) 年度「ダーナ献金」のご報告 (現況)

今年度開催の行事におけるダーナ献金の合計は、118,093円でした。内訳は次の通りです。

- ・若寺族婦人研修会 (7月25日開催) 13,050円
- ・寺族婦人会連盟50周年記念大会 (10月10日開催) 105,043円

ご参加の皆様よりご協力をいただきました。誠にありがとうございますございました。

お寄せいただいたダーナ献金については、常任委員会にて協議のうえ、送金先を決定いたします。

なお、山陰教区寺族婦人会連盟のダーナ活動として、東北ボランティアセンターへのお茶会支援を継続して行っておりましたが、二〇一九年度、終了することとなりました。

東日本大震災東北教区現地緊急災害対策本部よりご連絡があり、東日本大震災から八年が経過し、今後の支援活動の在り方について、各地で活動を続ける支援団体の皆様と議論を重ねておられたのですが、宮城県名取市の仮設住宅でのお茶会が三月末をもって終了したことをひとつの節目とし、支援物資の募集を終了されるのご報告があったためです。

本部長よりのお手紙の中で、「皆さま方のご支援が、被災者の方々が生きていく上での大きな励みに、力になりましたことは間違いのないことであり、ここに厚く御礼申し上げます。」

とのお礼のお言葉がありました。復興が進む中、こころの復興は目に見えにくく、今なお困難な状況にある方も多くおられるそうです。東日本大震災の被災地域の皆様に、これからもこころを向けていくことが大切なことではないでしょうか。

物資の受け入れは終了されましたが、皆様におかれましては、これからのいろいろな形で復興支援にご協力いただきますようお願い申し上げます。

だれにでもできるダーナ

ダーナとは、仏教語で「布施」(ほせ)のことです。布施(ほうせ) (真実の仏法を伝え広める)・財施(ざいせ) (金品を分かち合う)・無畏施(むゐせ) (恐れを除き、癒しと勇気を与える)・無財の七施(むざいのしちせ) (思いやり、ささえあうこと) などに分かれます。なかでも無財の七施は、いつでも、どこでも、だれでも、自分のできる範囲で実践できるものであり、思いやりのある生き方を示すものです。ダーナを行うにあたっては、「させてください、ありがとうございます」という気持ちをお忘れないようにしましょう。

無財の七施

1. 眼施(あたたかいまなざし)
2. 和顔悦色施(にこやかな表情)
3. 言辞施(やさしい言葉)
4. 身施(精一杯のおこない)
5. 心施(慈しみ深いこころ)
6. 床座施(人にあたたかい席を)
7. 房舍施(気持ちよく迎えるこころがけ)

(仏教婦人会連盟パンフレットより)

編集後記

「寺婦のひろば」第二十二号をお届けいたします。

元号も平成から令和に変わりました。令和元年度として大きな行事、山陰教区寺族婦人会連盟五十周年記念大会が行われました。

スタッフとしても、大会前日は準備と講師先生を囲んで有意義な時間をすごさせていただきました。

当日は、とてもさわやかな一日で、大会の内容も「とても良かったよ」と声を掛けてくださってホッと、スタッフ一同大喜び。多くの方に支えられていることに気づかされた一日となりました。

ラグビーワールドカップの日本代表ではありませんが、参加の皆さまも含めて、「ワン・チーム」のすてきな大会でした。

ありがとうございます。今後ともよろしくおねがい致します。

教区寺婦連盟へのご意見ご要望等ありましたら教区事務局までお聞かせください。(F)